

- ・このたびは、当社製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
- ・この取付説明書に示した表示記号の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためのものです。

表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容（指示）にしたがってください。

この取付説明書では、次のような記号を使用しています。

⚠ 注意

- ・取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害のおそれがある内容を示しています。

お願い

- ・取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。
- ・守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。

※

- ・取付説明の内容全体（個々の説明枠）にかかる注意事項を示しています。
- ・取付説明の内容に制限がある場合の条件を示しています。

補 足

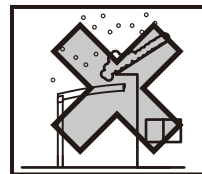
- ・説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

※製品破損、倒壊による人への危害・物的損害が想定されますので、下記事項をお守りください。

<施工の前に>

⚠ 注意

- ・製品の施工には、危険を伴う場合がありますので、必ず専門の工事業者による施工をお願いします。
- ・当製品は簡易型車庫です。物置・遊び場あるいは住居の一部等への転用を目的として、みだりに改造・変更をしないでください。
- ・積雪（新雪）20cm（600N/m²）を超えない地域に設置してください。
- ・建物の屋根から落雪を直接受けない位置に設置してください。
- ・強風地域、特に崖上、屋上、風の通り道上等の施工は避けてください。
- ・給湯器や暖房機等の熱排気が製品内にこもるような場所に施工しないでください。排気による中毒のおそれがあります。
- ・傾斜地に設置する場合は、低い場所の埋込み深さを確保してください。
- ・一つの現場で同時に異なるサイズを施工する場合は、本来の製品性能を保持するために、部材を間違えないように確認をしてから施工を行なってください。



お願い

- ・正しく施工、組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
- ・製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。
- ・梱包明細表で必要な部材、部品が揃っているか確認してください。
- ・給湯器や暖房機等の熱排気が製品に当たらないように施工してください。排気による塗装劣化・剥離^{はくり}のおそれがあります。
- ・施工場所に寸法的に正しく納まるかどうか確認してください。

<基礎工事について>

▲ 注意

- ・寒冷地で凍上するおそれのある地域で使用する場合は、凍上線の下まで基礎を設けてください。強度低下の原因になります。
- ・柱内の水抜きができるよう、基礎には必ず碎石を敷き、柱と基礎の付け根に水抜き穴（φ6）をあけてください。柱内の水が凍結膨張し、柱が破損するおそれがあります。
- ・モルタルやコンクリートには、塩分を含む砂（海砂）および塩素系強アルカリのコンクリート用混和剤（凍結防止剤、凝固促進剤、急結剤等）は使用しないでください。使用するとアルミ等の金属が腐食する原因になります。必要な場合は非塩素系や非アルカリ系の混和剤をご使用ください。

お願い

- ・モルタルやコンクリート等が製品の表面に付着した場合は、速やかに拭取ってください。シミやムラ等の外観不良の原因になります。

<施工上のご注意>

▲ 注意

- ・「使用上の注意」ラベルを貼っている柱に竖樋を取付けると、表示が見えなくなり、正しく注意を促すことができなくなります。竖樋を取付けない側に表示ラベルを向けてください。
- ・アルミ製品が垂鉛、ステンレス以外の金属と接触する場合は、絶縁処理をしてください。
- ・製品の改造や、指定箇所以外の穴加工はしないでください。
- ・水濡れのおそれがありますので、指定の箇所にシーリングをしてください。
- ・シリコーンシーリング材を使用する場合は、ポリカーボネート板のひび割れ等のおそれがありますので、当社指定の脱アルコール系シーリング材を使用してください。
- ・製品の強度低下、またはケガの原因になりますので、ボルト、ネジは弊社純正品の規定本数を使い、下記の推奨締め付けトルクで固定した後ゆるみがないか確認してください。

シーリング材メーカー	品名および品番
信越化学工業(株)	シーラント72
モメンティブ・パフォーマンス・マテリアルズ・ジャパン(合)	トスシール380
東レ・ダウコーニング(株)	SE960

※φ4ネジ：2.5N・m±0.5N・m（25±5kgf・cm）

※M6ボルト：12.0N・m±0.5N・m（120±5kgf・cm）

※φ5ネジ：3.0N・m±0.5N・m（30±5kgf・cm）

※M8ボルト：20.0N・m±0.5N・m（200±5kgf・cm）

お願い

- ・施工工事にあたっては、安全に施工を行なってください。
 - ※作業服および保護具（保護帽、安全帯、眼、手、足の保護具）を正しく使用してください。
 - ※作業場所の整理整頓を行なうとともに、安全確保を行なってください。
 - 特に高所作業での安全確保、倒壊防止、照明による照度の確保など。
 - ※器具、工具、保護具などの機能を確認し、使用してください。
 - ※作業は、相互の作業と各作業工程を考慮して進めてください。免許、技能講習、特別教育が必要な作業は、有資格者が行なってください。
 - ※作業者が相互に安全確認を行なってください。健康状態を十分に確認し、健康管理を実施してください。
 - ※万が一、事故が発生した際には、直ちに手当を行ない、救助を第一に心がけてください。
- ・製品についた汚れは取除き、誤ってキズをつけた場合は、補修塗料で補修してください。

<施工の後に>

▲ 注意

- ・ボルト、ネジを増し締めしてください。ただし、緩み止め付きボルトは、硬化前に増し締めしてください。

お願い

- ・取扱説明書は施主様にお渡しください。

INDEX

■ 梱包明細表	4	■ 8 前枠の取付け	14
■ 各部名称	6	■ 9 後枠の取付け	14
■ 基本タイプの施工方法	7	■ 10 側枠の取付け	15
■ 確認事項	7	■ 11 対角寸法の確認	17
■ 1 基礎寸法の確認	8	■ 12 中骨の取付け	18
■ 2 柱の建て込み準備	9	■ 13 屋根材の取付け	18
■ 3 柱の建て込み	10	■ 14 垂木カバーの取付け	19
■ 4 柱と梁の取付け	10	■ 15 縦樋の取付け	20
■ 5 部材の加工	12	■ 縦連棟の施工方法	21
■ 6 端部垂木の取付け	13	■ 確認事項	21
■ 7 垂木の取付け	13	■ 1 本体の組立て	22

表示マーク



独立基礎で
施工の場合



土間コンクリートで
施工の場合



柱位置を移動して
施工する場合

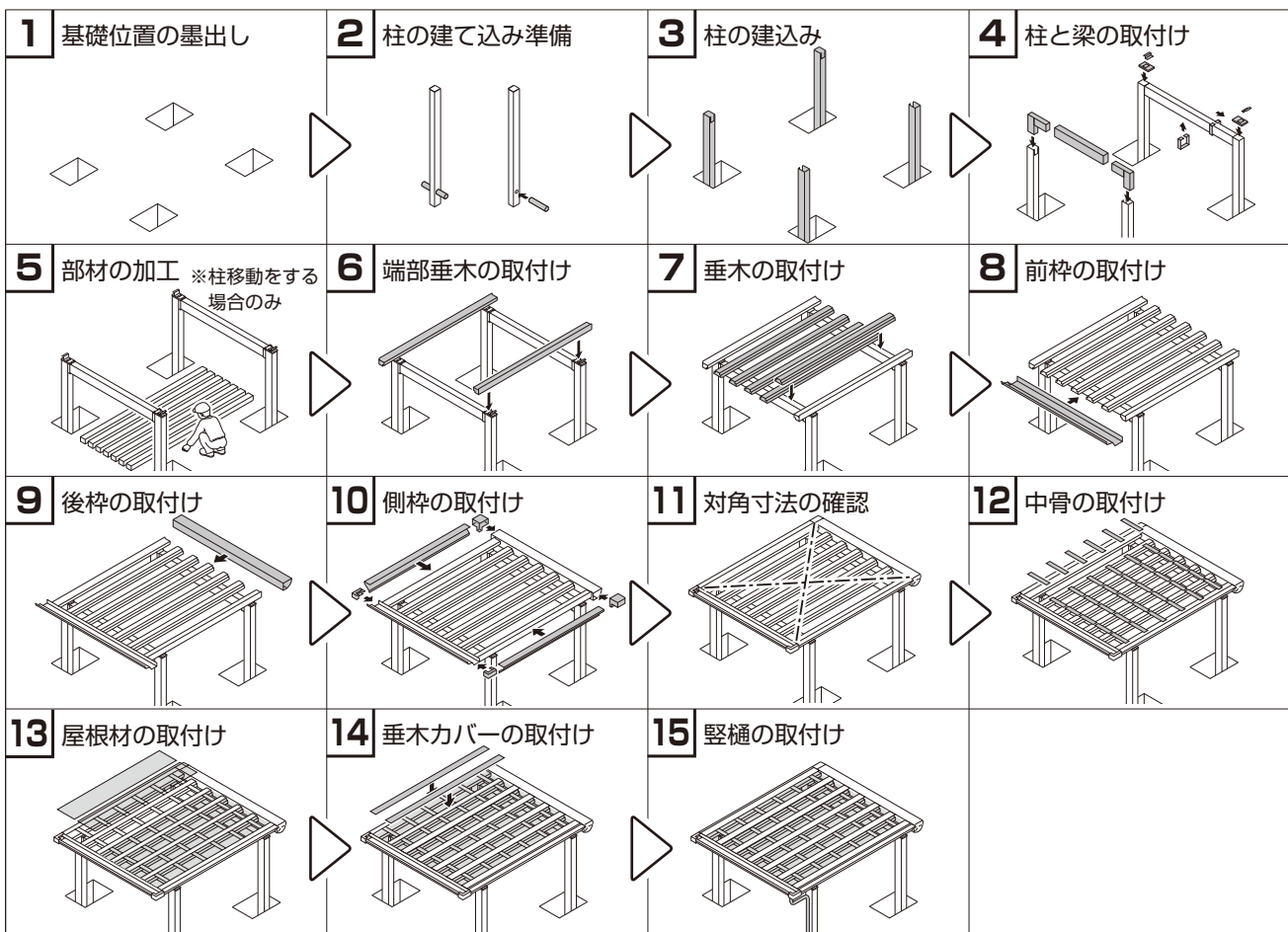


「縦連棟」を
施工する場合



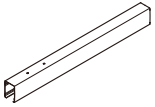
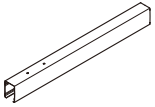
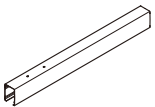
シーリング箇所

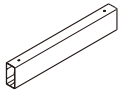
施工の流れ

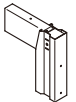


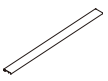
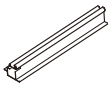
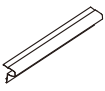
梱包明細表

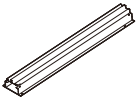
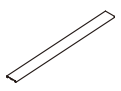
※施工の前に梱包明細表で必要な部材、部品が揃っているか確認してください。

【1】 柱セット		
名 称	略 図	員 数
柱A 50型 L=2845		2
柱B 50型 L=3095		2
柱C 50型 L=3395		1

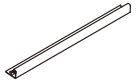
【2】 梁セット		
名 称	略 図	員 数
梁		1

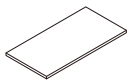
【3】 ブラケットセット		
名 称	略 図	員 数
ブラケット		2











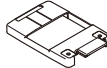
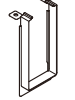
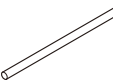



【4】 側枠セット		
名 称	略 図	員 数
側枠カバー		2
端部垂木		左右各1
側枠		2


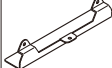

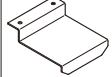









【5】 垂木セット			
名 称	略 図	員 数	
		2本入り	3本入り
垂木		2	3
垂木カバー		2	3

【6】 幅セット		
名 称	略 図	員 数
後枠		1
前枠		1
後枠屋根材受け		1
縦樋φ60 L3400		1

【7】 中骨セット		員 数			
名 称	略 図	13本入	14本入	18本入	21本入
中骨		13	14	18	21

【8】 屋根材セット		員 数	
名 称	略 図	1枚入	2枚入
屋根材		1	2

【9】 部品セット ワイド		員 数	
名 称	略 図	W48・54	W60
92° エルボ (φ60)		2	2
でんでん		3	3
ドレンエルボ (φ60)		1	1
雨樋アタッチメント		1	1
雨樋パッキン		2	2
雨樋穴塞ぎキャップ		1	1
後枠コーナーキャップ [部品番号] L: 628744A R: 628745A		左右 各1	左右 各1
接着剤		1	1
前枠コーナーキャップ [部品番号] L: 628742A R: 628743A		左右 各1	左右 各1
端部アーチ固定金具		4	4
柱キャップ		4	4
柱梁カバー		4	4
φ8×200アンカー棒		4	4
穴隠しシール φ10		36	40
【9-1】 M8×20六角ボルトPW (緩み止め付き)		24	24
【9-2】 φ4×13 ナベドリルネジ		6	6
【9-3】 φ5×12 トラスタッピンネジ3種		472	518
取扱説明書 <UD125>	—	1	1
取付説明書 <D654>	—	1	1

【10】 縦連棟部品セット (オプション)		員 数
名 称	略 図	
奥行連棟 端部用止水パッキン		4
奥行連棟合掌連結材		8
端部キャップ (奥行き連棟)		2
端部キャップカバー (奥行き連棟)		2
端部キャップパッキン (奥行き連棟)		2
奥行き連棟 棟木止水パッキン		7
【10-1】 M6六角ナット		8
【10-2】 M6袋ナット		8
【10-3】 M6×14トラス小ねじ		8
【10-4】 M6×85六角ボルト		8
【10-5】 M6バネ座金		24
【10-6】 M6平座金ミガキ丸		24
【10-7】 φ4×12トラスタッピンネジ3種		10

【11】 縦連棟部材セット (オプション)		員 数
名 称	略 図	
縦連棟用棟木 ワイド		1

基本タイプの施工方法

確認事項

□ 姿図

⚠ 注意



【柱移動】をした場合

柱芯々寸法±100mm以内で柱移動をしてください。



【縦連棟】の基礎寸法は、P.8および対応したページも併せて参照してください。

お願い

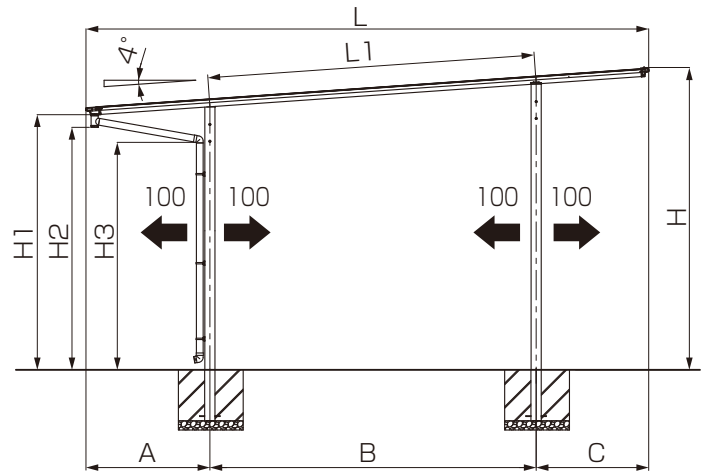
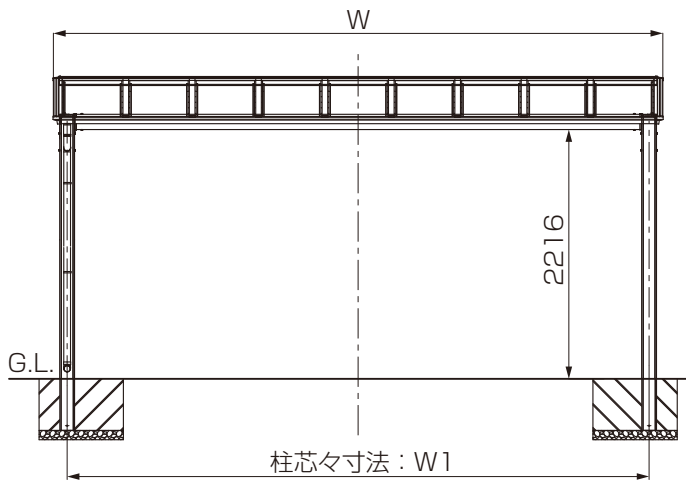
- ・ 造計算書を添付して建築確認申請を行なっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。
- ・ 柱内の水が抜けるように必ず砕石を敷いてください。

補足

← 印は【柱移動】範囲を示します。

【ロング柱の場合】

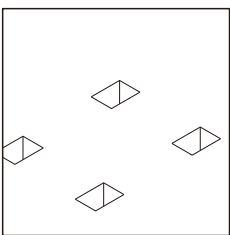
高さ寸法に+250してください。



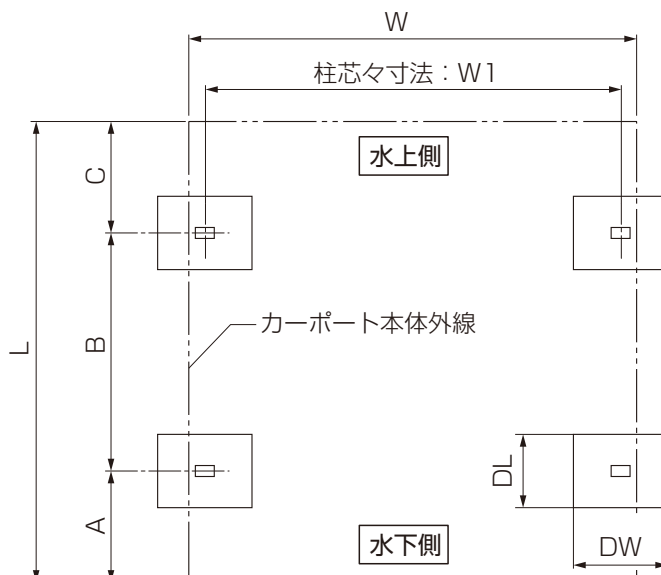
間口	W	W1
W48	4827	4583
W54	5417	5173
W60	6007	5763

奥行	L	L1	A	B	C	H	H1	H2	H3
L50	5002	2907	1102	2900	1000	2687	2268	2155	2022

□ 基礎の墨出し



① 柱の埋込み位置を出して、基礎穴を掘ってください。

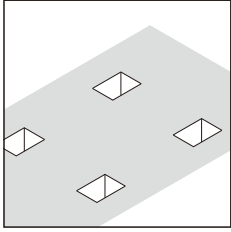


【基礎寸法数値について】
基礎寸法「DW」「DL」「DH」は
『P.8』を参照してください。

1 基礎寸法の確認



【縦連棟】の基礎寸法は対応したページも併せて参照してください。

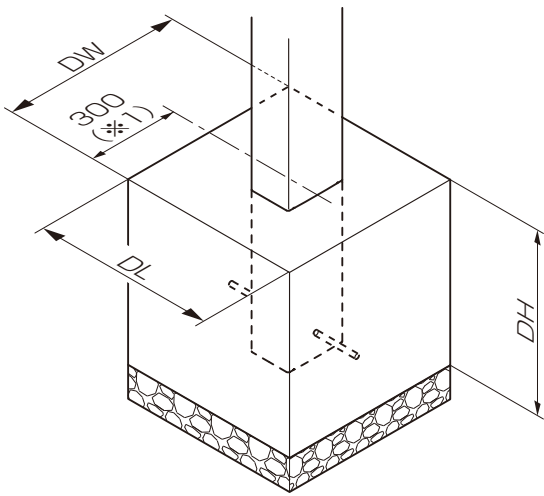


①基礎穴寸法を確認してください。

サイズ (間口)	独立基礎寸法			土間コンクリート寸法		
	DW	DL	DH	DW	DL	DH
W48	700	600	500	400	300	500
W54	700	600	500	400	300	500
W60	800	700	500	500	300	500



【独立基礎仕上げ】の場合の作業です。

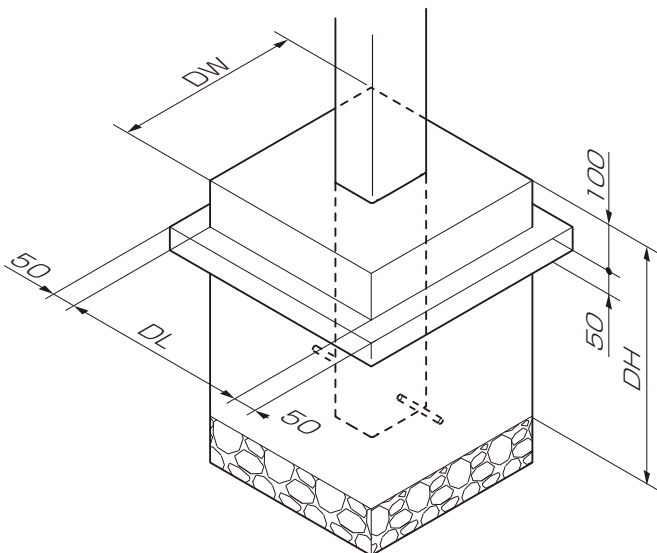


補足

(※1) は柱芯から柱背面側の基礎端面までの寸法です。

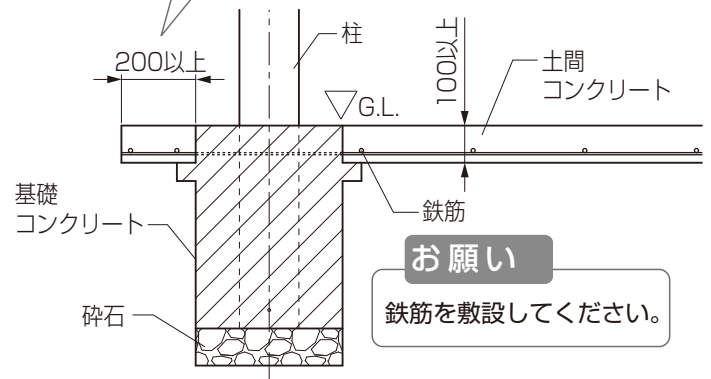


【土間コンクリート仕上げ基礎】の場合の作業です。



お願い

基礎上面と土間コンクリートの縁端距離は200mm以上になるようにしてください。



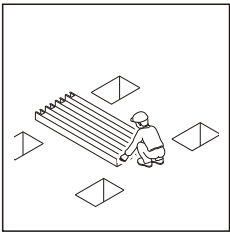
お願い

鉄筋を敷設してください。

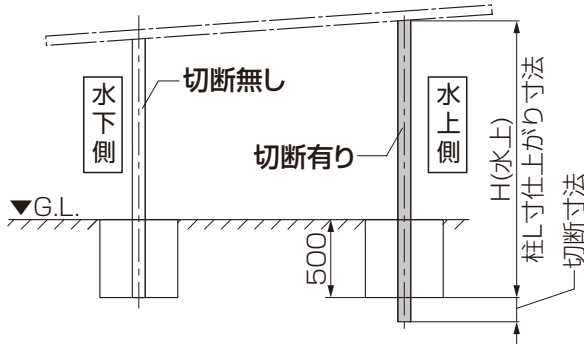
2 柱の建て込み準備

1 柱の加工

(1) 基本の場合



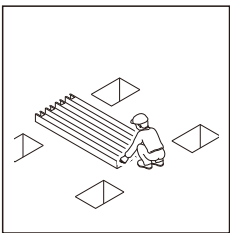
①柱に加工を行なってください。



H(水上)寸法表

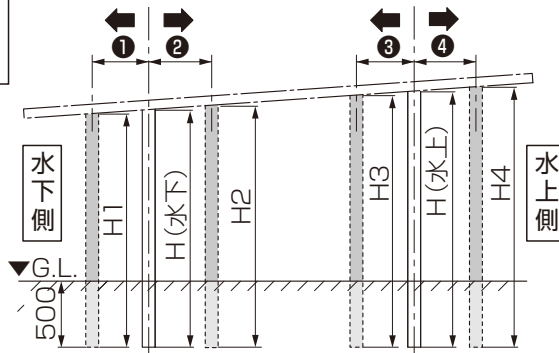
		H22	ロング柱
L50	H(水上)	3048	3298
	切断寸法	(47)	(97)

(2) 柱移動の場合



【柱移動】の場合の作業です。

①柱に加工を行なってください。

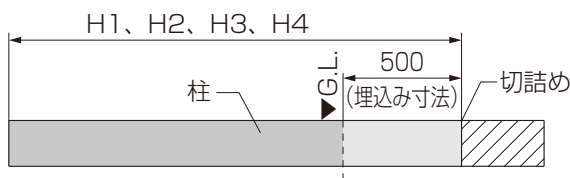


H(水下)寸法表

		H22	ロング柱
L50	H(水下)	2845	3095

H(水上)寸法表

		H22	ロング柱
L50	H(水上)	3048	3298



【水下側の場合】

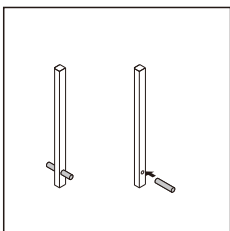
- ・H1=H(水下)-0.07×移動距離①
- ・H2=H(水下)※1(切断なし)

※1の場合、水上側の柱を0.07×移動距離②の寸法分短くしてください。
(埋込み深さ調整または切断)

【水上側の場合】

- ・H3=H(水上)-0.07×移動距離③
- ・H4=H(水上)+0.07×移動距離④

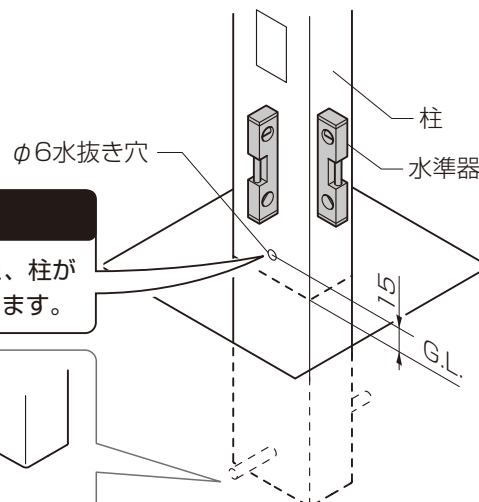
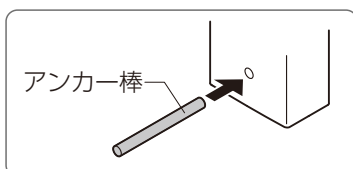
2 アンカー棒の取付け



①アンカー棒を柱に差込んでください。

②柱のG.L.付近(地上側)にφ6水抜き穴をあけてください。

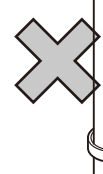
⚠ 注意
水抜き穴をあけないと、柱が破損するおそれがあります。



お願い

【柱を建てこむ際は】

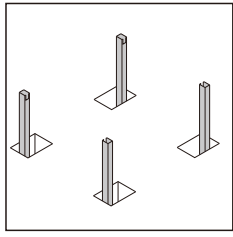
「使用上の注意」ラベルが、竖樋でかかれないように柱を建込んでください。



お願い

柱の垂直を確認してください。

3 柱の建込み



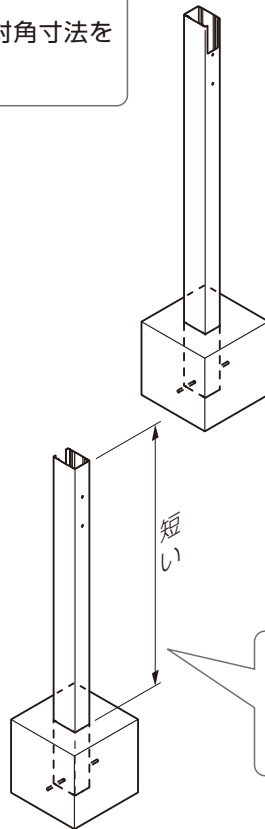
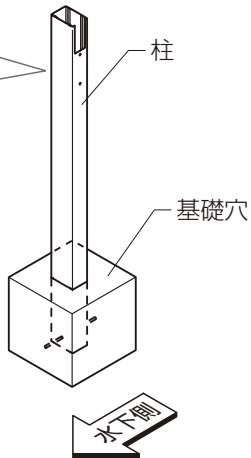
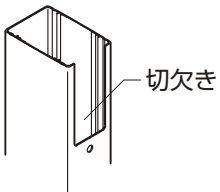
①柱を基礎穴に建込んでください。

お願い

柱を固定する前に柱間の対角寸法を確認してください。

お願い

柱に切欠きがある方を内側にしてください。



お願い

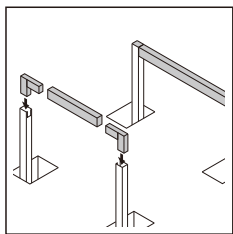
長い柱が「水上側」になるようにしてください。

お願い

短い柱が「水下側」になるようにしてください。

4 柱と梁の取付け

1 梁の取付け



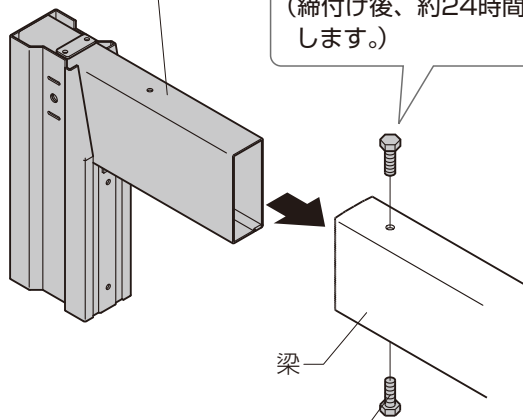
①ブラケットを梁に差込み【9-1】で取付けてください。

②梁を柱に【9-1】で取付けてください。

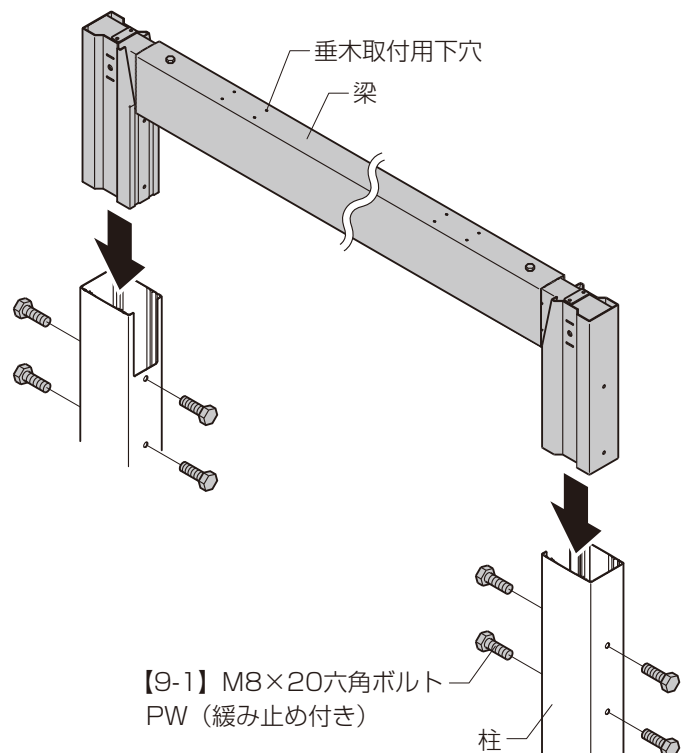
お願い

緩み止め剤硬化後にボルトを「緩めたり、締めたり」しないでください。緩みやすくなる場合があります。(締付け後、約24時間で硬化します。)

ブラケット

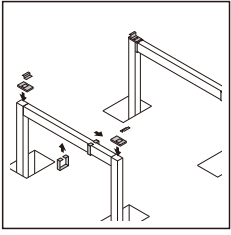


【9-1】 M8×20 六角ボルトPW (緩み止め付き)

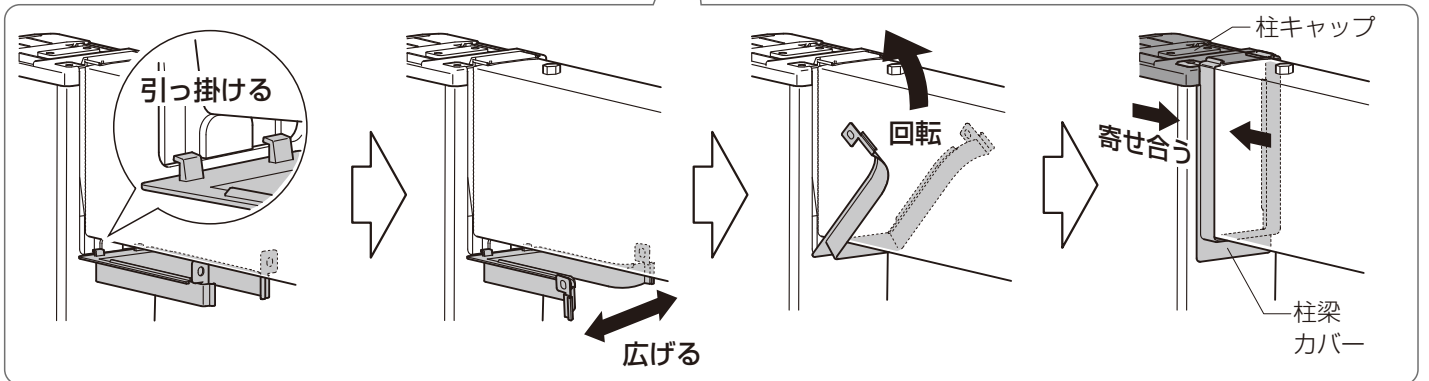
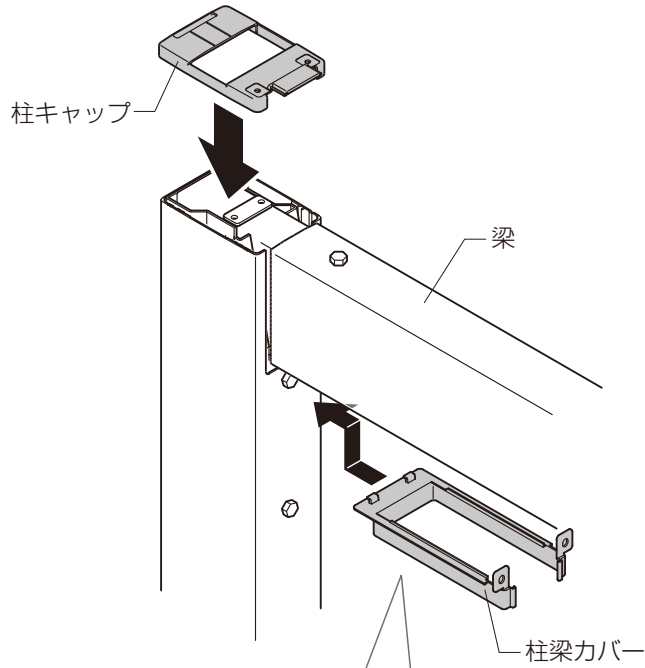


【9-1】 M8×20 六角ボルトPW (緩み止め付き)

2 部品の取付け



- ① 柱キャップを柱にはめ込んでください。
- ② 柱梁カバーを柱の切欠き部にはめ込んでください。
- ③ 柱梁カバーを柱キャップに【9-3】で取付けてください。
- ④ 端部垂木固定金具をブラケットに【9-3】で取付けてください。



【9-3】φ5×12トラス
タッピンネジ3種

端部垂木固定金具

柱キャップ

ブラケット

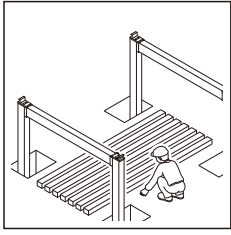
柱梁カバー

【9-3】φ5×12トラス
タッピンネジ3種

補足

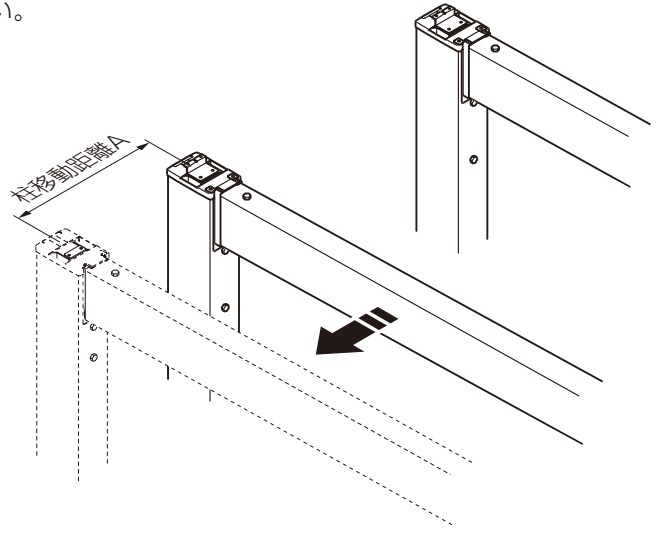
この段階では柱キャップと
柱梁カバーは多少ガタつき
ます。

5 部材の加工

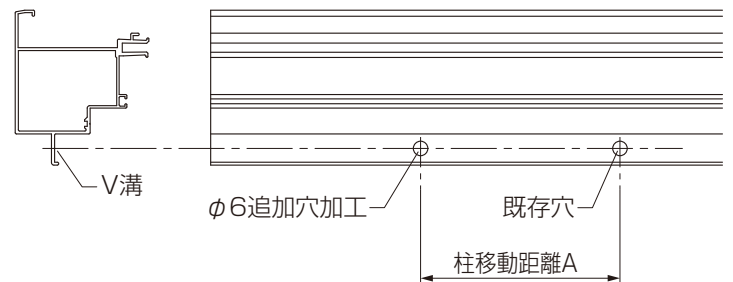
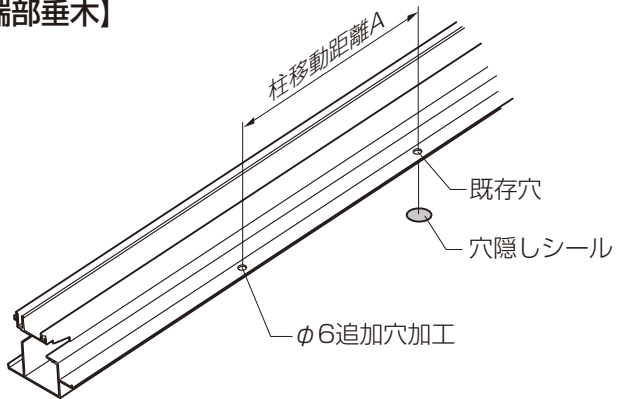


【柱移動】の場合の作業です。

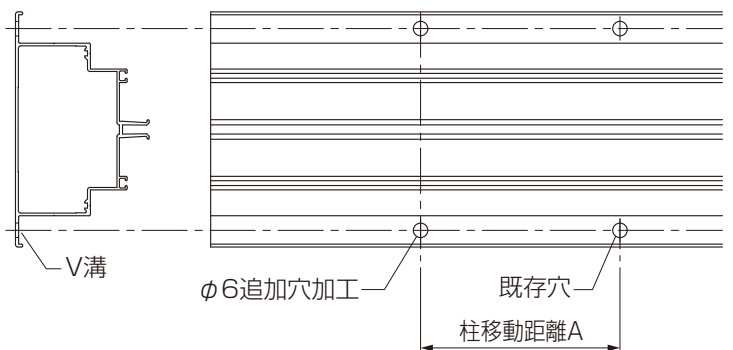
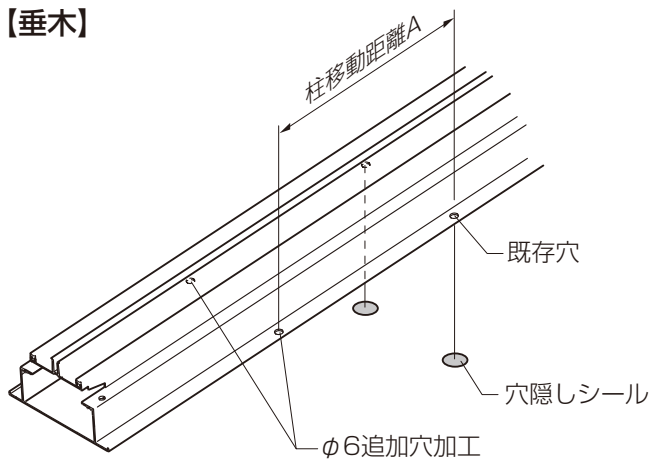
- ① 部材に穴加工を行なってください。
- ② 既存穴に穴隠しシールを貼ってください。



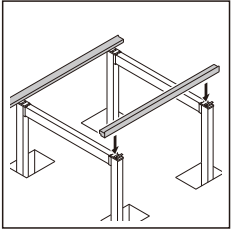
【端部垂木】



【垂木】



6 端部垂木の取付け



①端部垂木を端部垂木固定金具に【9-3】で取付けてください。



【9-3】φ5×12トラス
タッピンネジ3種

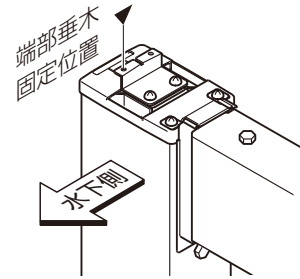
端部垂木

水下側

端部垂木
固定金具

お願い

端部垂木固定金具の水下側の穴に取付けてください。



お願い

ネジの浮き・傾きがないように取付けてください。



ネジの浮き

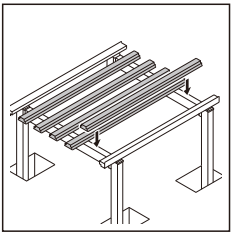


ネジの傾き



ネジの浮き・傾きなし

7 垂木の取付け



①垂木を梁に【9-3】で取付けてください。



【9-3】φ5×12トラス
タッピンネジ3種

垂木

梁

水下側

お願い

水下側のみ固定してください。

お願い

ネジの浮き・傾きがないように取付けてください。



ネジの浮き

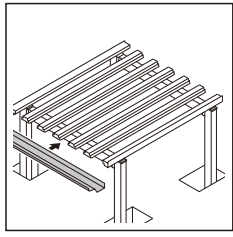


ネジの傾き

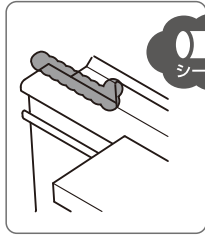


ネジの浮き・傾きなし

8 前枠の取付け



- ①前枠の切欠き部にシーリングをしてください。
- ②前枠を端部垂木と垂木に【9-3】で取付けてください。

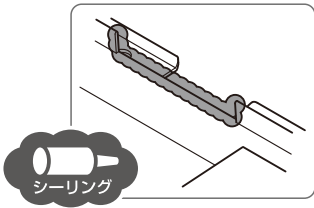


補足

本手順で端部垂木のネジ固定は不要です。

前枠

【9-3】φ5×12トラスタッピンネジ3種



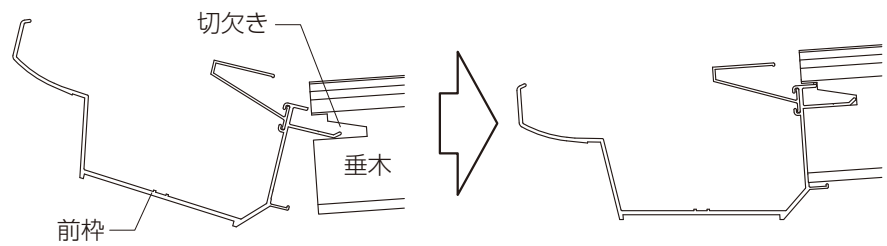
シーリング

端部垂木

垂木

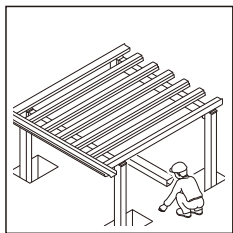
お願い

前枠を斜めに傾けながら垂木の切欠きに差込んでください。

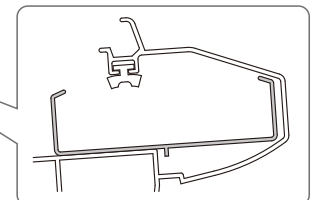
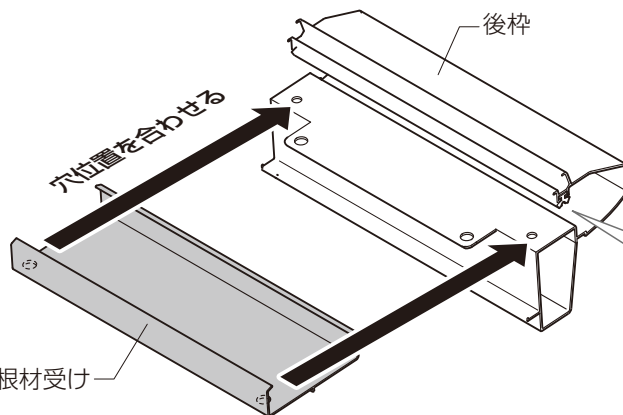


9 後枠の取付け

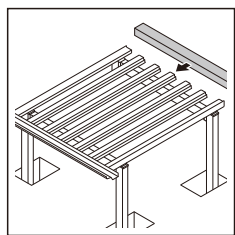
1 部材の取付け



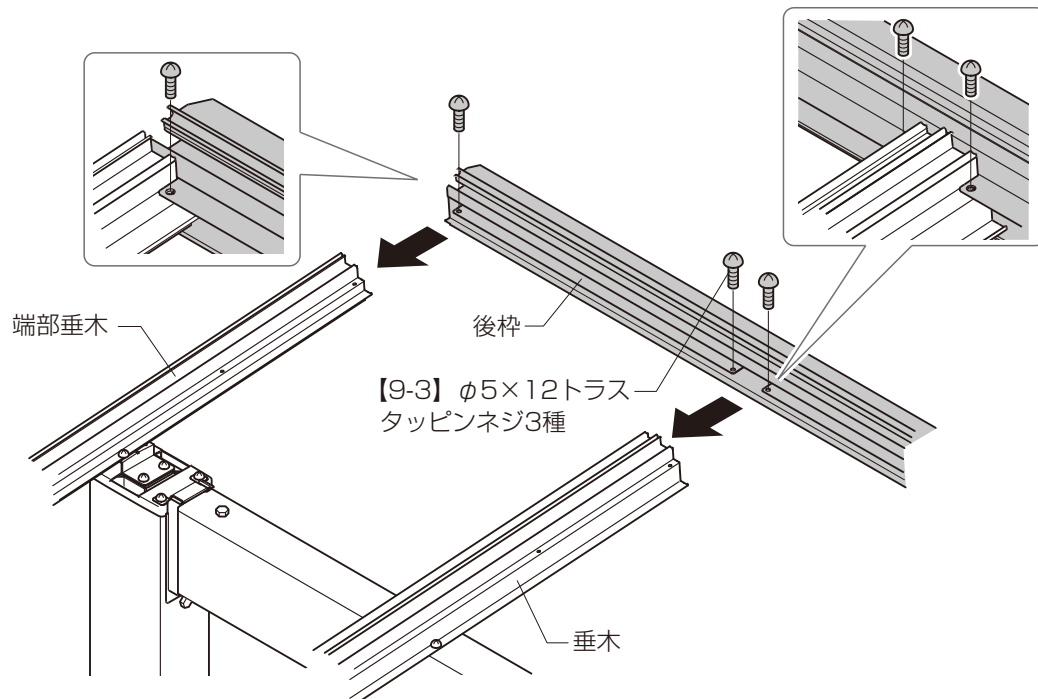
- ①後枠屋根材受けを後枠に差し込んでください。



2 後枠の取付け

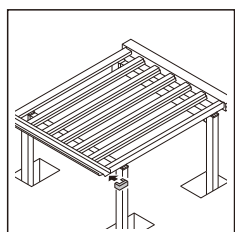


①後枠を端部垂木と垂木に【9-3】で取付けてください。

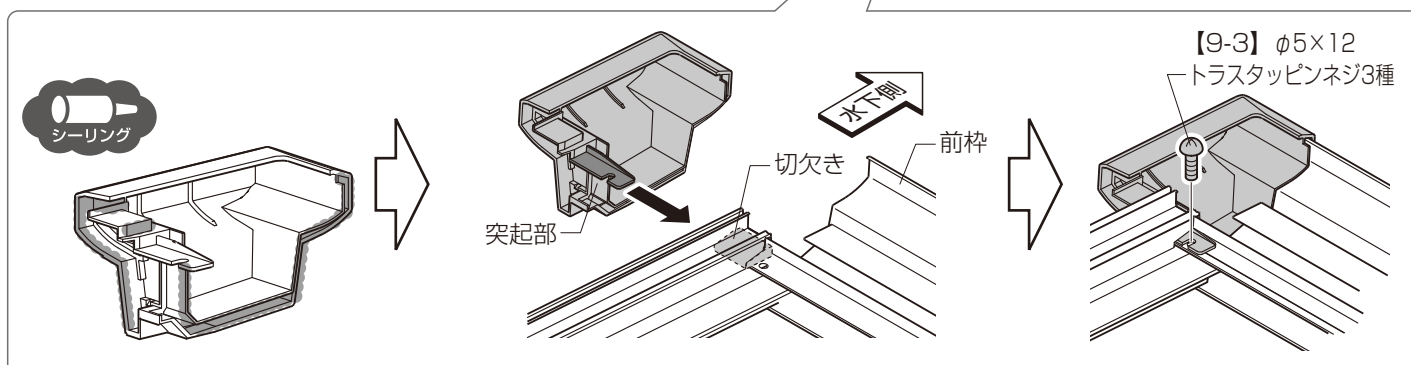
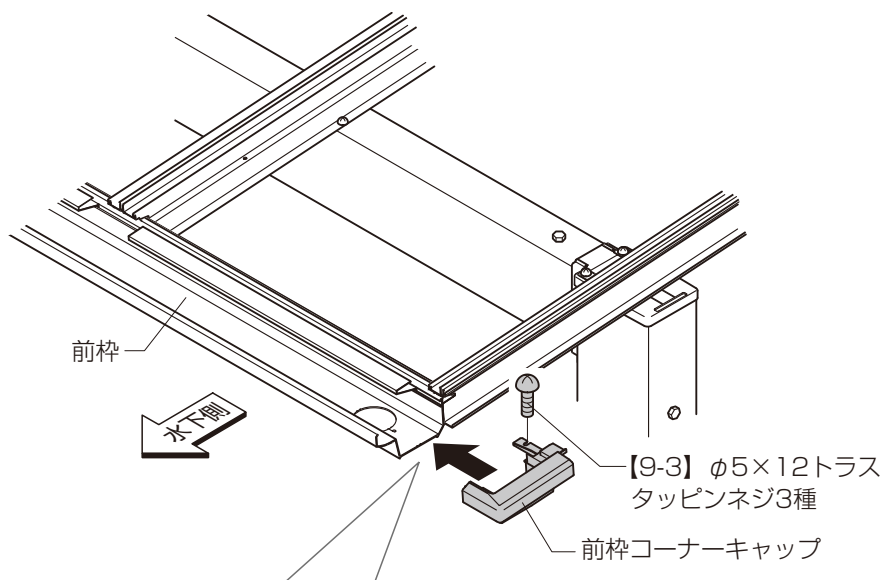


10 側枠の取付け

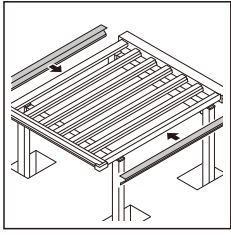
1 前枠コーナーキャップの取付け



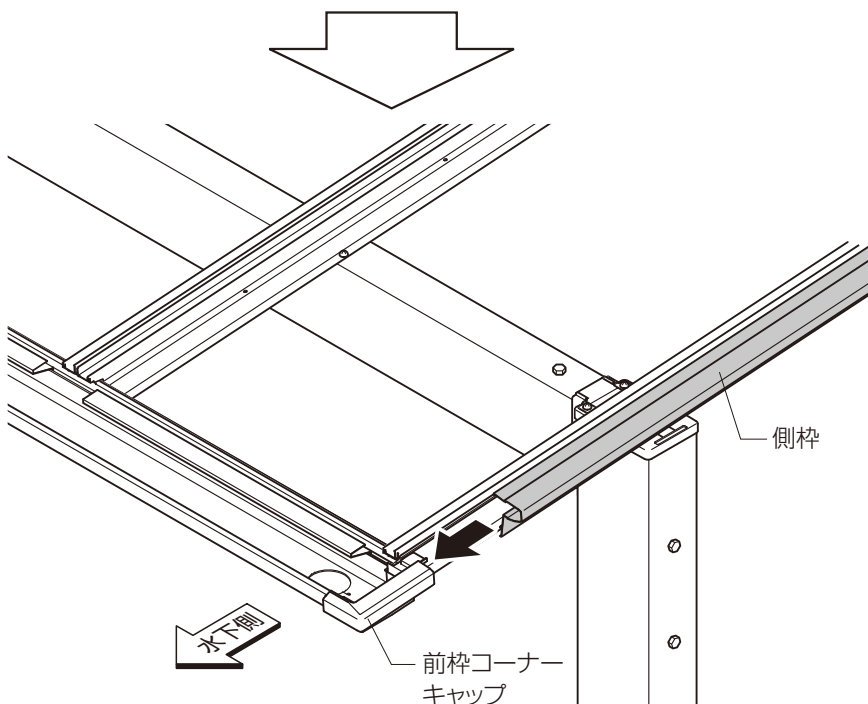
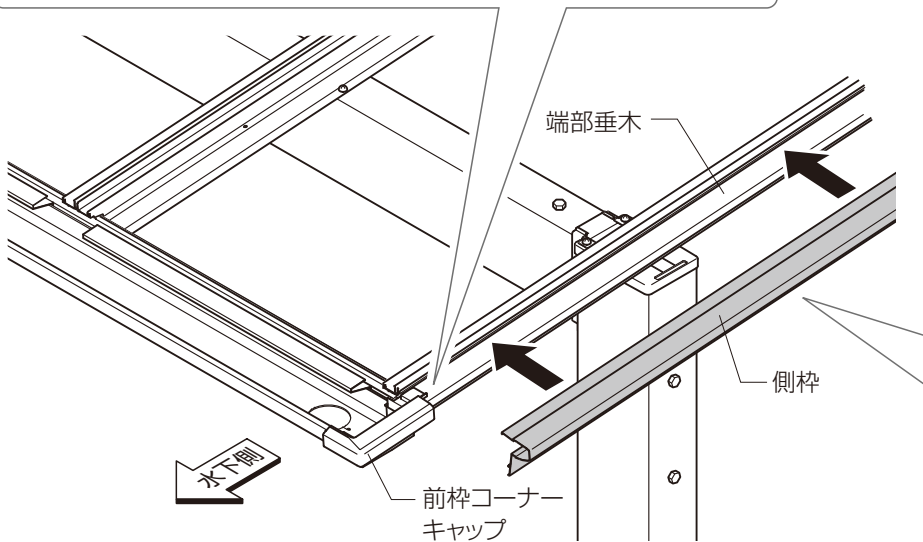
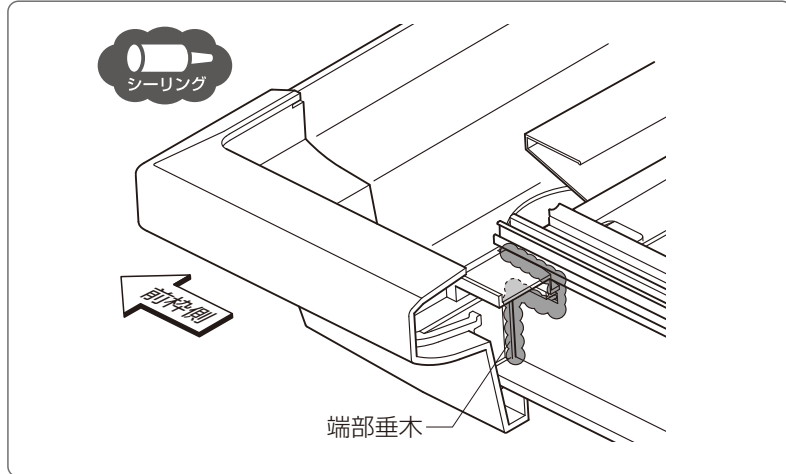
- ①前枠コーナーキャップにシーリングをしてください。
- ②前枠コーナーキャップを前枠にはめ込み【9-3】で取付けてください。



2 側枠の取付け

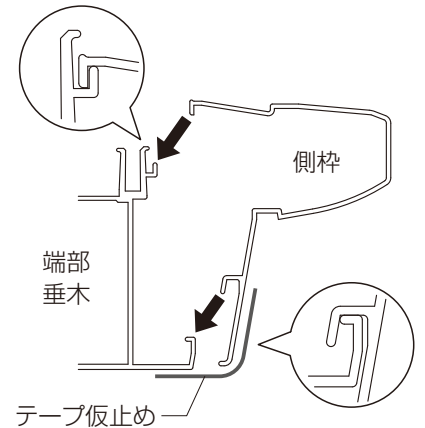


- ① 端部垂木と前枠コーナーキャップの接合部にシーリングをしてください。
- ② 側枠を端部垂木に取り付けてください。
- ③ 側枠を前枠コーナーキャップに突き当ててください。

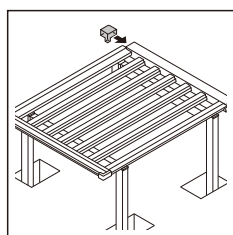


補 足

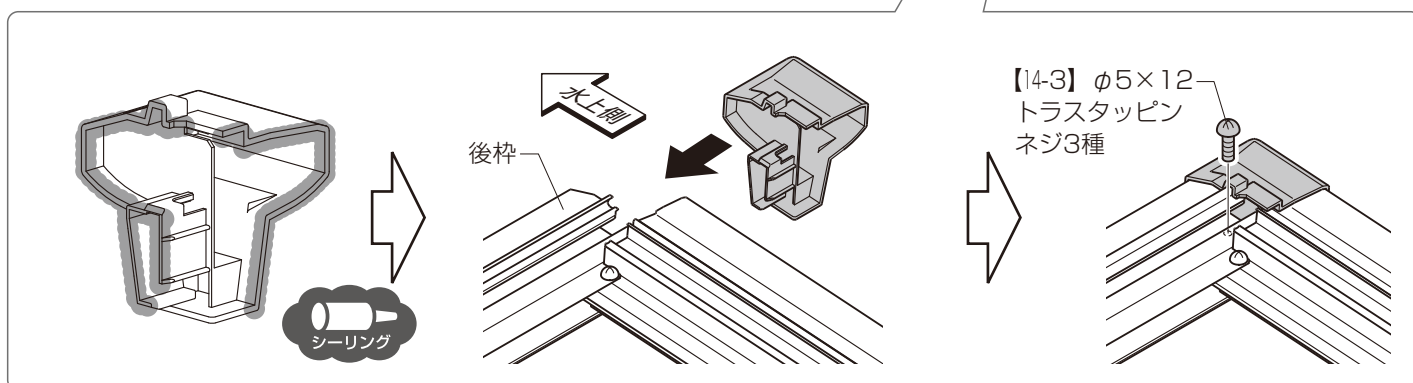
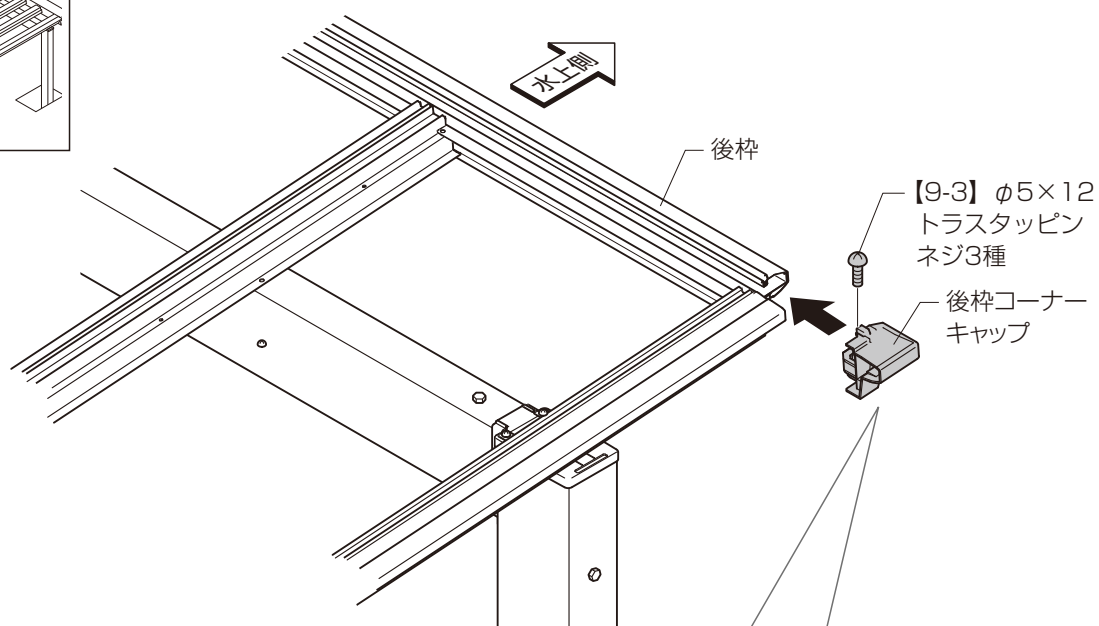
- ・側枠の上下のツメを端部垂木にしっかりと引っ掛けて取付けてください。
- ・「**垂木カバーの取付け**」の行程までテープなどで側枠を仮止めしてください。側枠カバーの取付けまで側枠は固定されていません。



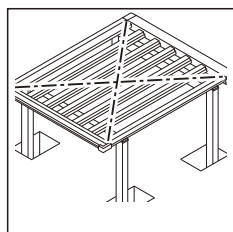
3 後枠コーナーキャップの取付け



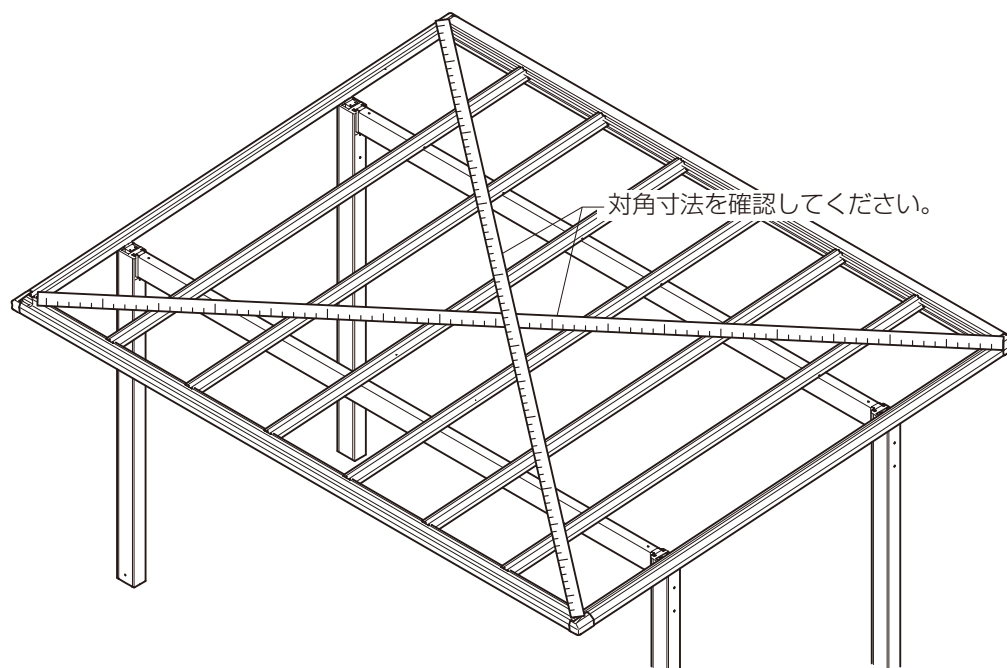
- ①後枠コーナーキャップにシーリングをしてください。
- ②後枠コーナーキャップを後枠に差込み【9-3】で取付けてください。



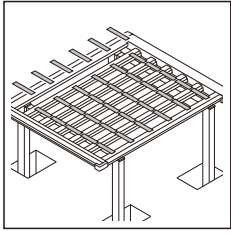
11 対角寸法の確認



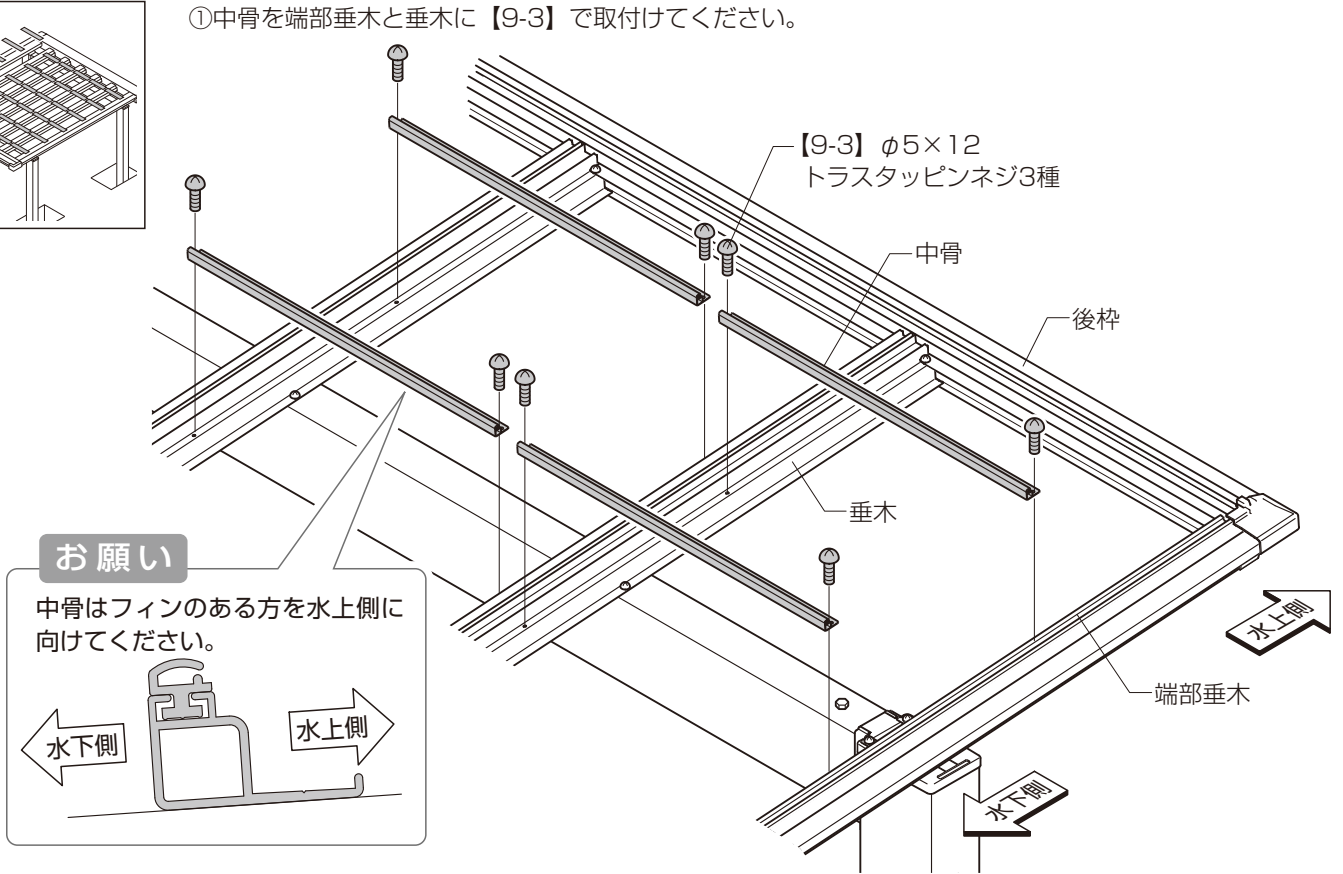
- ①屋根枠まわりの対角寸法をそろえてください。



12 中骨の取付け

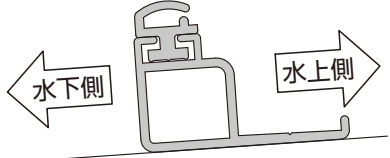


①中骨を端部垂木と垂木に【9-3】で取付けてください。

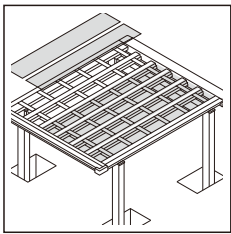


お願い

中骨はフィンのある方を水上側に向けてください。



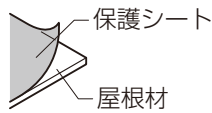
13 屋根材の取付け



①屋根材を後杵のカバー部、前杵の屋根材受けに差込んでください。

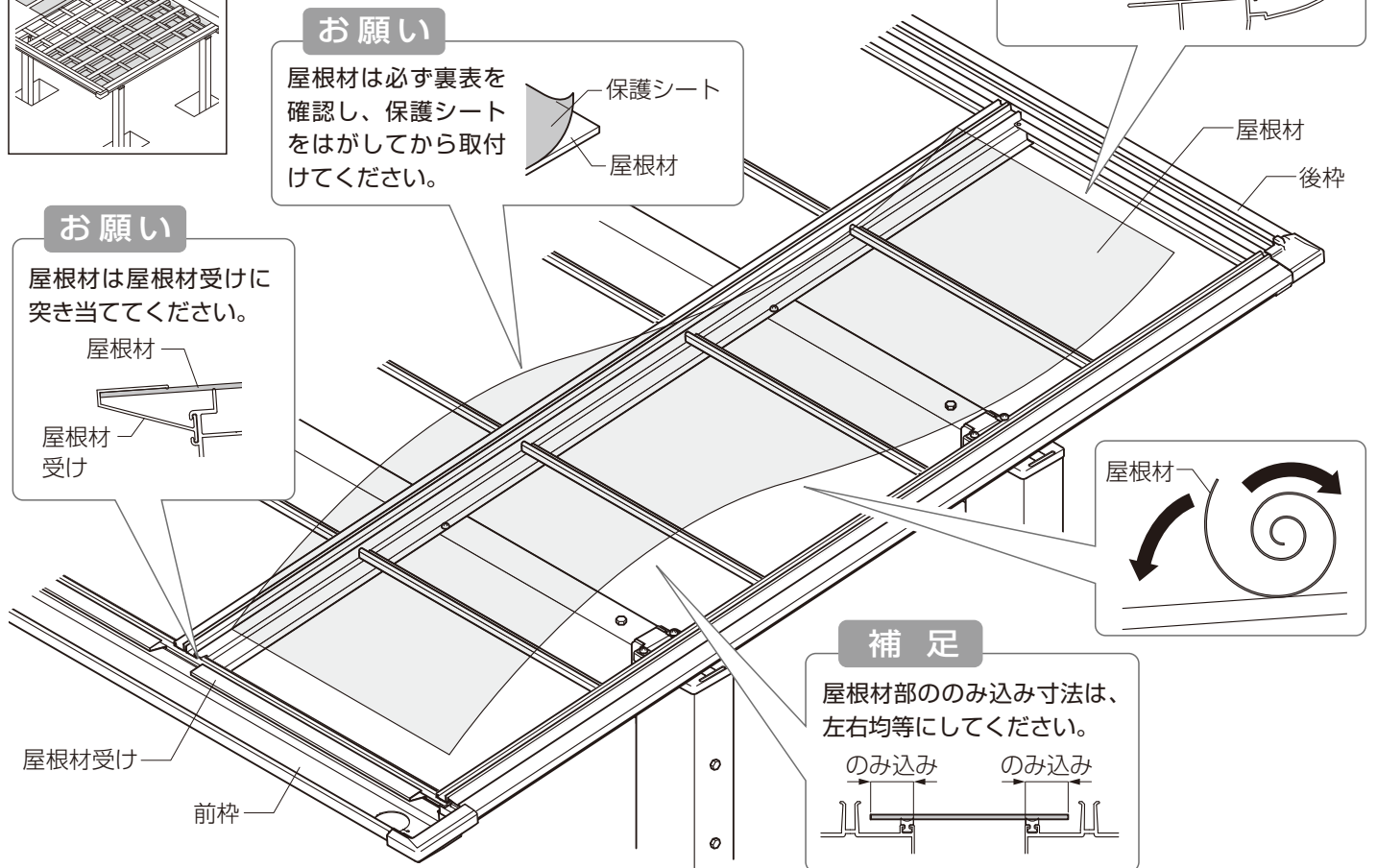
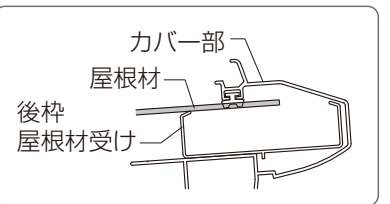
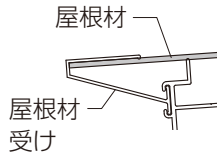
お願い

屋根材は必ず裏表を確認し、保護シートをはがしてから取付けてください。



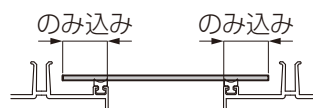
お願い

屋根材は屋根材受けに突き当ててください。

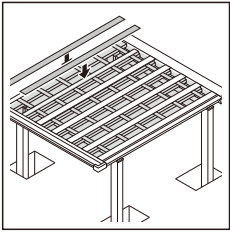


補足

屋根材部ののみ込み寸法は、左右均等にしてください。



14 垂木カバーの取付け



- ①垂木カバーを垂木に【9-3】で取付けてください。
- ②側枠カバーを端部垂木に【9-3】で取付けてください。
- ③垂木カバーにシーリングをしてください。

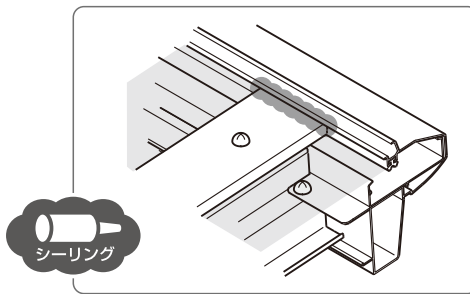
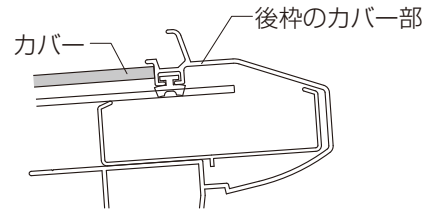
お願い

ネジの浮き・傾きがないように取付けてください。



お願い

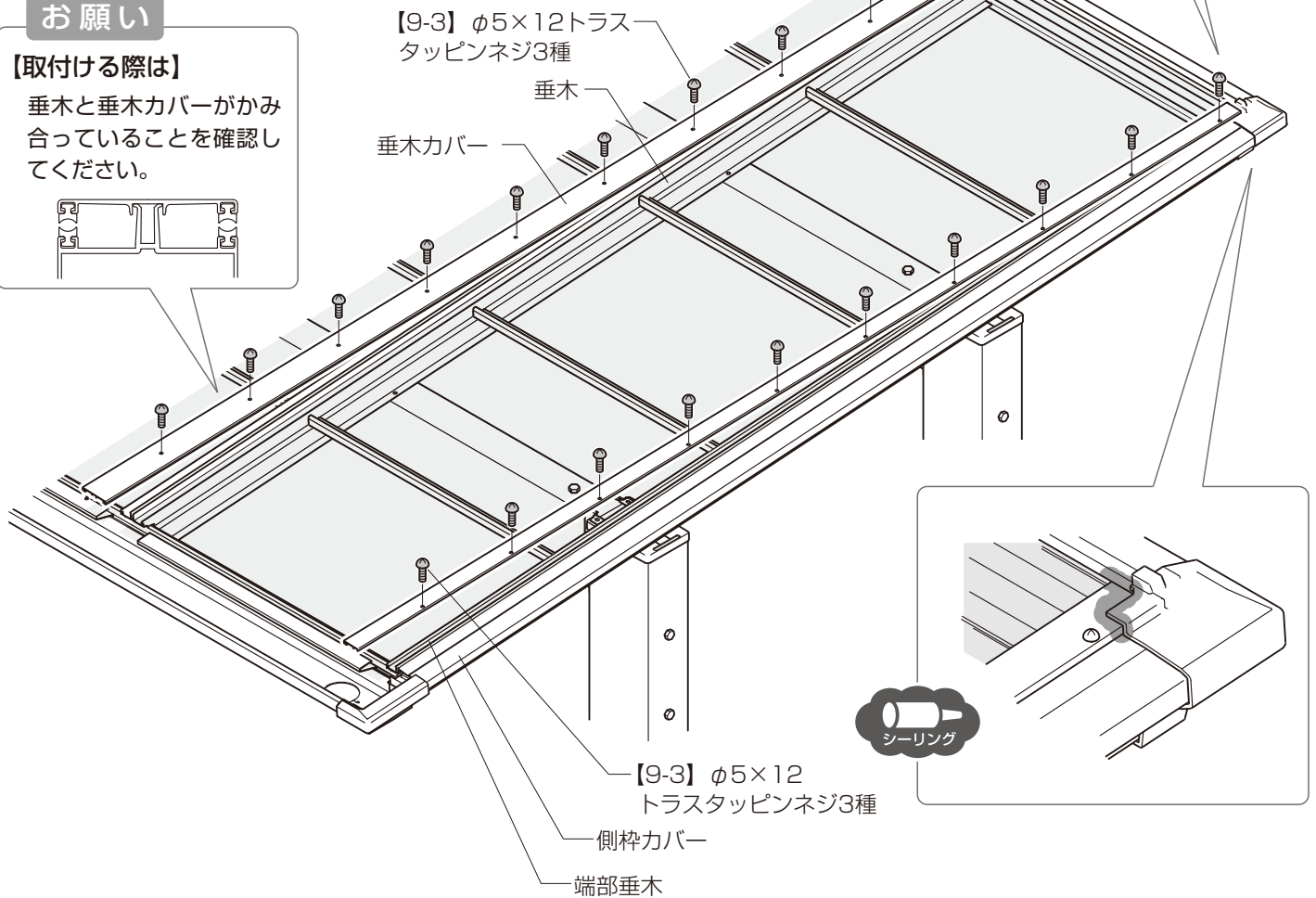
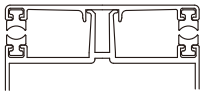
- ・後枠側から取付けてください。
- ・後枠のカバー部に突き当てて取付けてください。



お願い

【取付ける際は】

垂木と垂木カバーがかみ合っていることを確認してください。



縦連棟の施工方法



【縦連棟】の場合の作業です。

確認事項

姿図

注意



【柱移動】をした場合

柱芯々寸法±100mm以内で柱移動をしてください。



柱を建込む際は、P.9「柱の加工」も参照してください。

補足

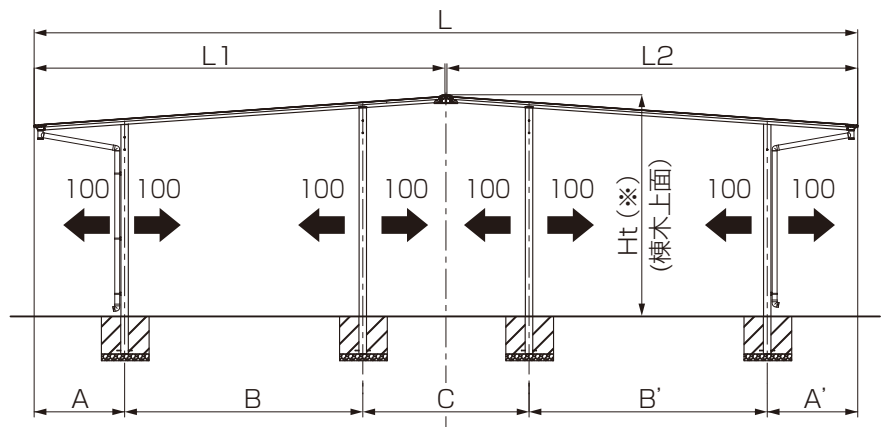
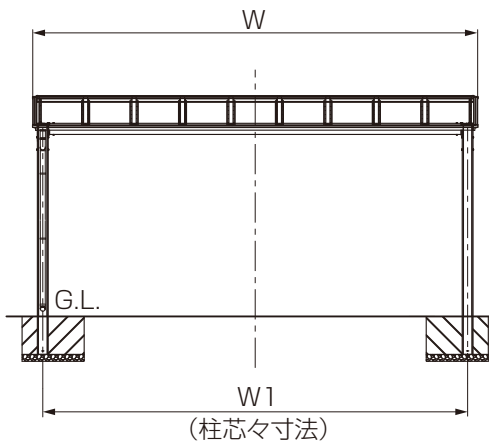
←印は【柱移動】範囲を示します。

【ロング柱の場合】

高さ寸法に+250してください。

お願い

柱内の水が抜けるように必ず砕石を敷いてください。

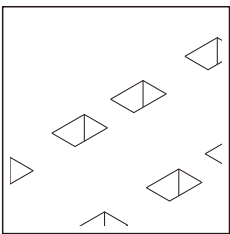


Ht (*) 以外の高さ寸法については「P.7」を参照してください。

間口	W	W1
W48	4827	4583
W54	5417	5173
W60	6007	5763

奥行	L	L1	L2	A	B	C	B'	A'	Ht
L50-L50	10027	5002	5002	1102	2900	2024	2900	1102	2700

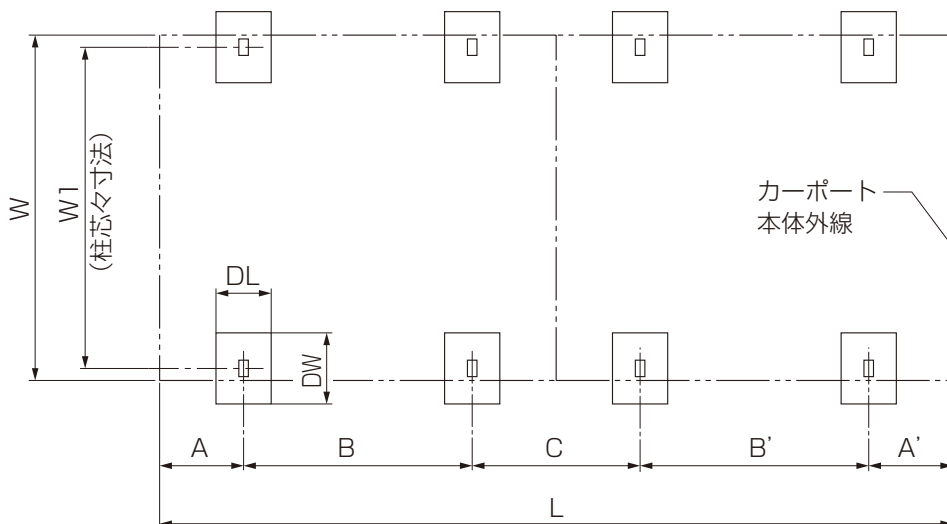
基礎の墨出し



①柱の埋込み位置を出して、基礎穴を掘ってください。

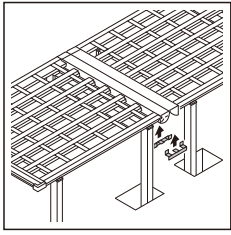


【基礎寸法数値について】
基礎寸法「DL」「DH」は「P.8」を参照してください。



1 本体の組立て

1 奥行連棟合掌連結材の取付け



- ① 垂木にφ7の貫通穴をあけてください。
- ② 奥行連棟合掌連結材を垂木に【10-2】、【10-4】、【10-5】、【10-6】で取付けてください。
- ③ 後枠のフィンに奥行連棟止水パッキンを張付けてください。

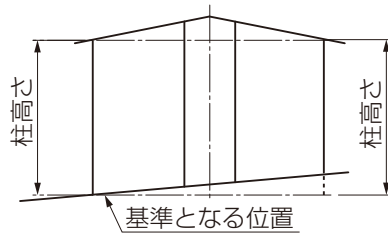
補足

【連棟部以外の取付けは】

「基本タイプの施工方法」を参照してください。

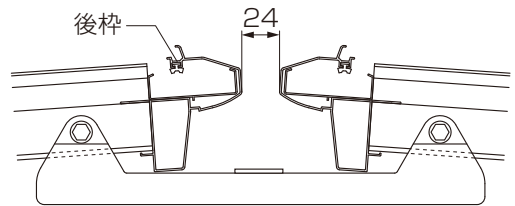
お願い

柱は基準となる位置から同じ高さとしてください。棟木に水がたまり、漏水するおそれがあります。また縦連棟用棟木の取付けに支障をきたす場合があります。



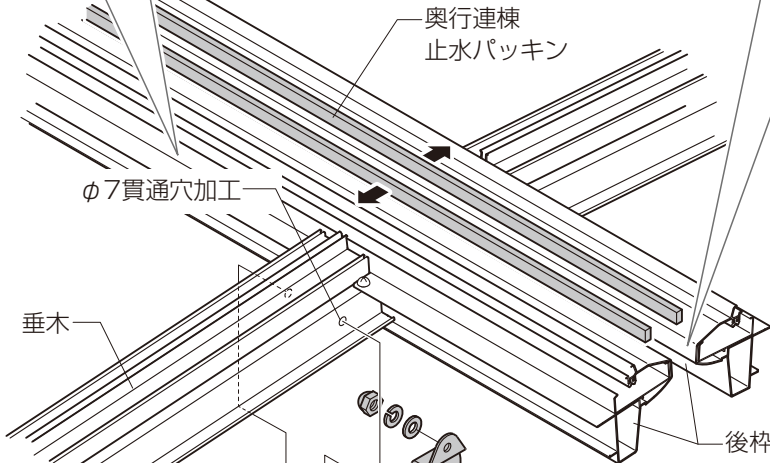
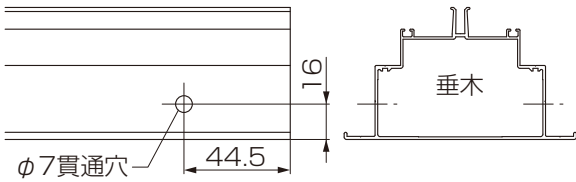
お願い

後枠と後枠の間隔が24mmであることを確認してください。



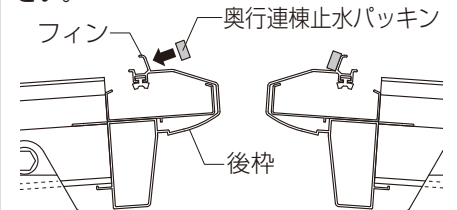
補足

奥行連棟合掌連結材を取付ける垂木のみ加工します。



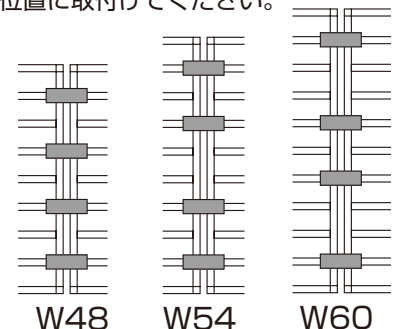
お願い

奥行連棟止水パッキンはすき間なく貼付けて、長い分はハサミなどでカットしてください。



お願い

奥行連棟合掌連結材 (■) は図の位置に取付けてください。



【10-2】 M6袋ナット

【10-5】 M6バネ座金

【10-6】 M6平座金

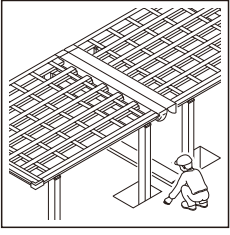
【10-6】 M6平座金

【10-5】 M6バネ座金

【10-4】 M6×85六角ボルト

奥行連棟合掌連結材

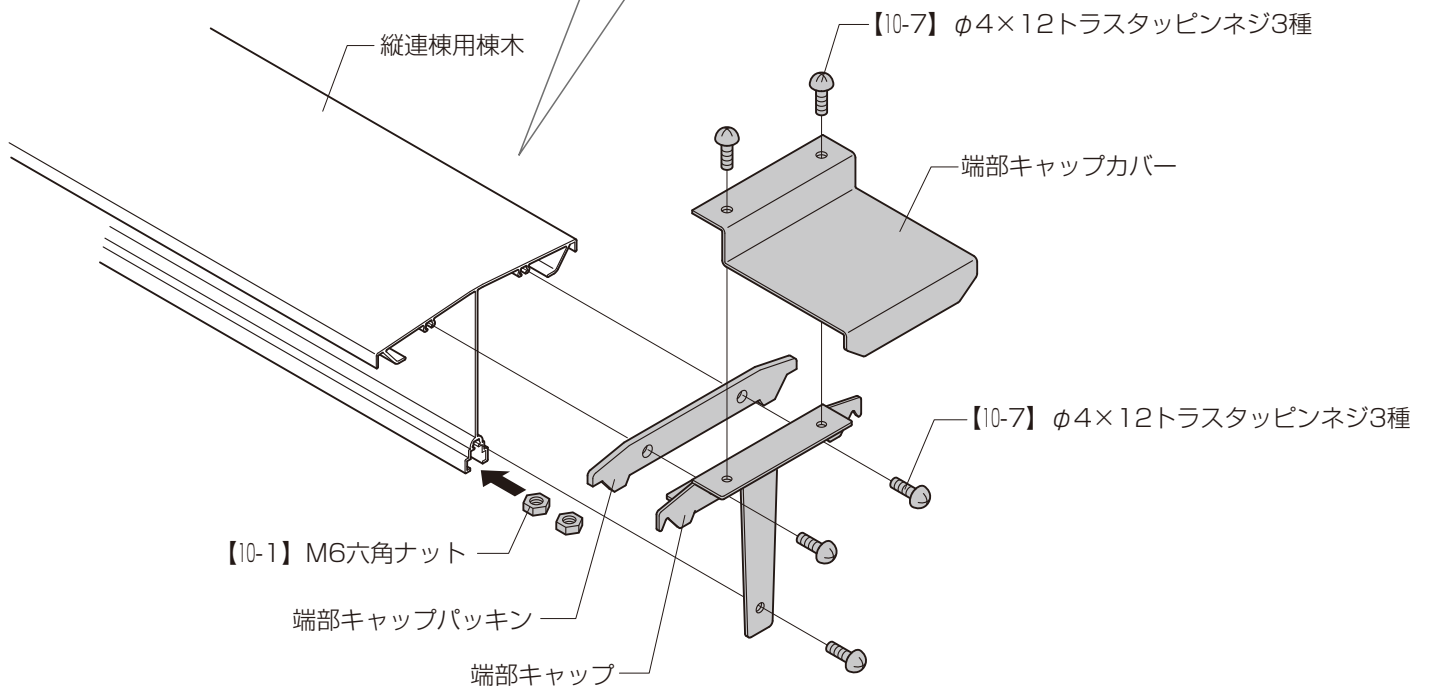
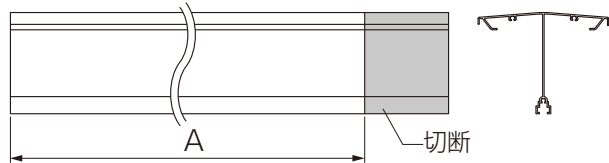
2 縦連棟用棟木の組立て



- ①縦連棟用棟木を切断してください。
- ②縦連棟用棟木のボルトホールに【10-1】を8個挿入してください。
- ③端部キャップパッキン、端部キャップを縦連棟用棟木に【10-7】で取付けてください。
- ④端部キャップカバーを端部キャップに【10-7】で取付けてください。
- ⑤止水パッキンを端部キャップに張付けてください。

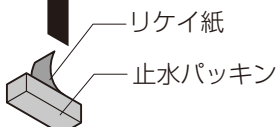
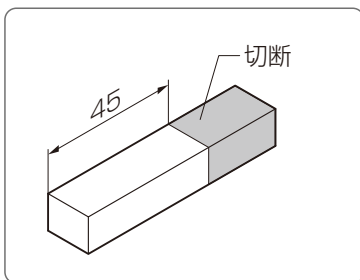
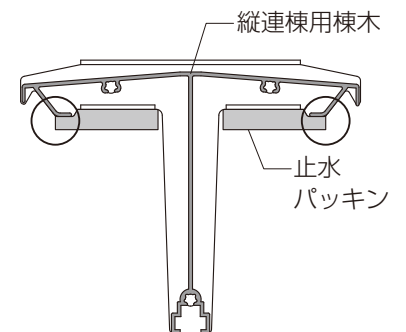
【縦連棟用棟木の切断】

	A
W48	4670
W54	5260
W60	5850

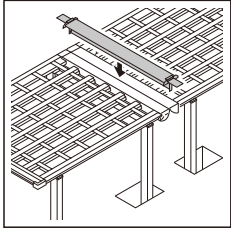


お願い

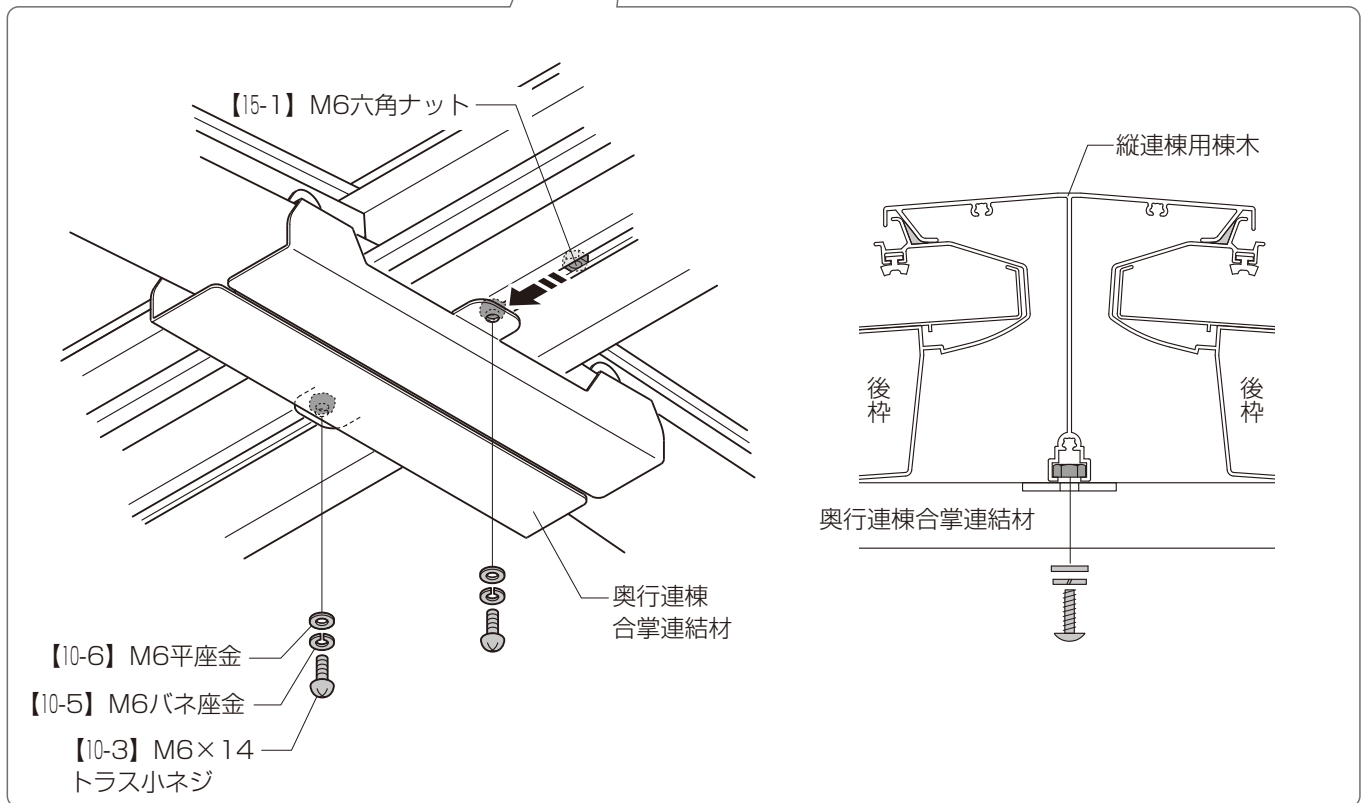
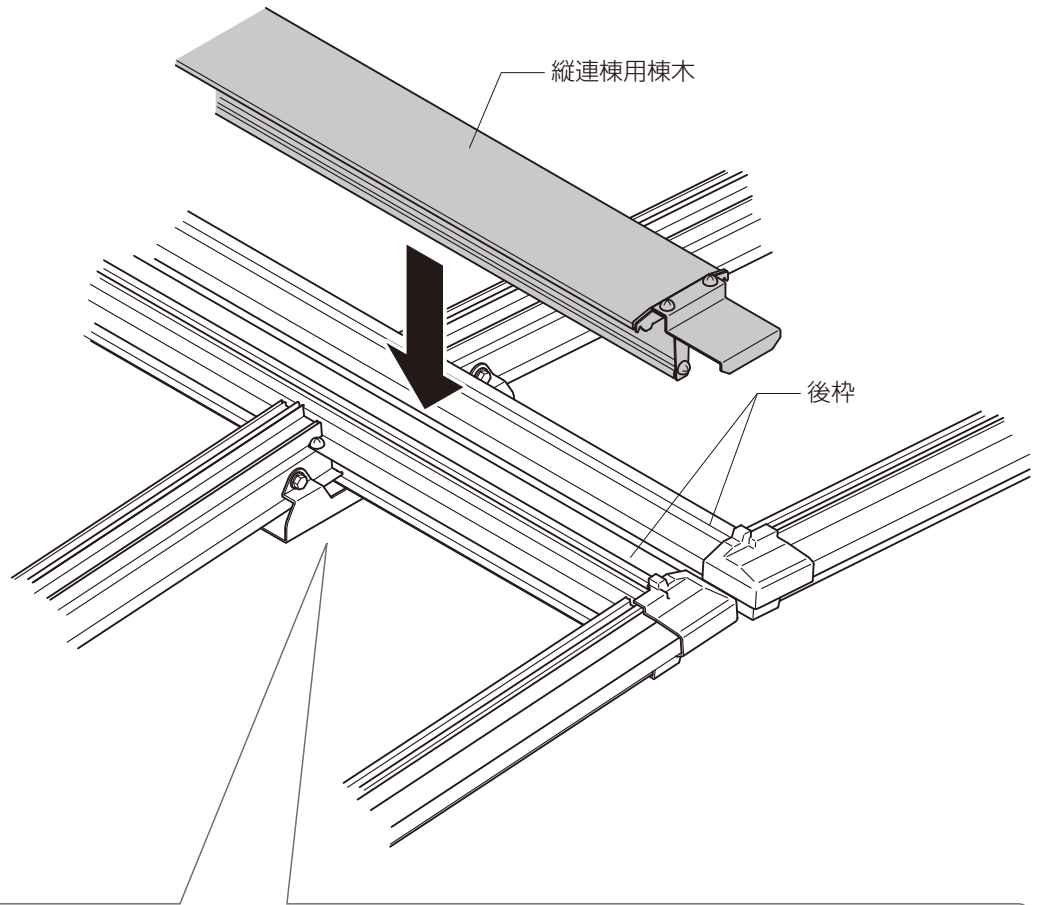
縦連棟用棟木の角に合わせて張付けてください。



3 縦連棟用棟木の取付け



- ① 縦連棟用棟木を後枠と後枠の間に乗せてください。
- ② 奥行連棟合掌連結材と縦連棟用棟木を【10-3】、【10-5】、【10-6】で固定してください。



取説コード
D654
 JZZ634931
 201806A_1039